

葛飾理大祭

学園祭グランプリ 2位

昨年11月に行われた本学の第4回葛飾地区理大祭が、東京のイベント情報サイト「レッツエンジョイ東京」主催の第8回学園祭グランプリ2016において初エントリー、総合2位に輝いた。

この学園祭グランプリは、おでかけスポットとしても楽しめる学園祭の活性化を目的に、「レッツエンジョイ東京」が2009年よりスタートさせたコンテストで、8回目の昨年は過去最高の102キャンパスが参加した。このコンテストでは「学生以外の人にも楽しめる」ことを審査の最大のポイントにし、各キャンパスの学園祭実行委員会より提出される学園祭のレポートをもとに、学園祭実行員OB・OGや留学生を中心とした審査員が厳正に審査して決めるものである。昨年度の葛飾地区理大祭

では、プロジェクトンマップ、地元野菜の物産展、フリーマーケット、古本市など地域と密接に連携した企画が数多く開催された。このような地域との交流を重視した活動により、学園祭グランプリでは「地域コラボ賞」「ユニーク企画賞」「企業コラボ賞」の3賞を受賞し、総合2位に輝いた。今回、栄光ある受賞へと導いた葛飾地区理大祭実行委員長の藤沢一希さんに話を聞いた。

藤沢さんは今回の理大祭を準備・運営するにあたって2つの目標を掲げていた。一つ目は「理科大

プロジェクトンマッピング

プロジェクトンマッピングは、葛飾区と共同で開催するイベントを行いたいという理大祭実行委員会の要望から実現した。管理棟をスクリーンとし、2日間



▲プロジェクトンマッピングで金町を盛り上げる

2万人近くの観客を魅了した。地域と連携して開催したプロジェクトンマッピングが、高く評価され、地域コラボ賞を受賞した。葛飾野菜&熊本物産展は今年が初めての試みで、葛飾区の商店による地元野菜の販売や、昨年4月の熊本地震復興を目的とした熊本物産展も開催された。また、地域の人々50組余りが参加して、食堂2階でフリーマーケットを行うなど、地域や企業と連携した企画が数多く用意され「企業コラボ賞」にも輝いた。

今年の理大祭にも乞うご期待

藤沢さんは、今回の理大祭を100点満点中90点に

金町の"食"を発信

金町食文化研究会



今、葛飾キャンパスを中心に活動する注目の団体が金町食文化研究会（以下、シヨクブンカ）だ。昨年春に発足したシヨクブンカは、葛飾キャンパス周辺の飲食店を本学学生向けに広く発信している。グルメメディアアサークルだ。昨年度は、理大祭のミス・ミスターコンテストの候補者と共に金町周辺の飲食店で食レポをするなど、積極的に活動・発信を行っている。今回、そんな目覚ましい活躍をするシヨクブンカの創設者たる代表・執行部長の斎藤虎太郎さん、研究会長の高橋知久さんに話を聞いた。

金町は食の宝庫

「金町には食べる所が何もない。」葛飾キャンパスでよく耳にする言葉だ。内向的な人



多かったりするからだ。一方で、キャンパス周辺の商店街は、学生に来てほしいと

▲代表・執行部長の斎藤さん（左）と研究会長の高橋さん（右）

金町周辺の飲食店に行き、食レポをした。インタビュアーがミス・ミスターコンテストの候補者と食事を共にしながら話を

考えていたようだ。斎藤さんは、その点に着目し、学生側のニーズと商店街側のニーズをつなぐグルメメディアアサークルが必要だと思ったのが発足のきっかけだった。シヨクブンカは主な活動として、金町周辺の飲食店に赴きツイッターで店の紹介をしている。また、秋には葛飾キャンパスに所属するミス・ミスターコンテスト候補者の高橋美奈海さん、吉田紘城さんと共に金町周辺の飲食店に行き、食レポをした。インタビュアーがミス・ミスターコンテストの候補者と食事を共にしながら話を

すること、その飲食店のみなさん、候補者の魅力をも引き出し話題となった。このように、新参のサークルながら積極的に活動をしてきたシヨクブンカだが、やはり課題もある。それは、シヨクブンカはグルメメディアアサークルであるが、まだまだ多くの人に「食ベサー」として認知されていまいという点だ。昨年度の新入部員には「食ベること」に興味を惹かれて入った人が多く、メディア系の活動をしたという人が少なかつたという。他大には食ベサーがたくさんあるが、そのどれもが長続きしないのは、情報を発信する場がないからだ」と斎藤さんは語る。シヨクブンカが今後長く活動するため

には、メディアとしての活動にもっと力を入れなければならない。

やる気・遊び心・食欲求む！

そのために、今年度からは組織を大幅に変更し、メディア活動をする「執行部」と、食べる活動をする「研究会」の2つの部署を設けた。研究会が食べ歩きをして得た情報を、執行部員に提供して情報発信をする。メディア活動の部署を作ることで、メディアとしての確立を図る。今年度は、メディア活動がしたい新入生も大歓迎のことだ。また、今年度からは金町に限らず、東京都内全域に活動範囲を広げる。東京都内

こち亀を生んだ街 亀有

葛飾キャンパスの最寄り駅、金町はこち亀の舞台である亀有や、男はつらいよの舞台である柴又がすぐ近くにある。そのため、金町を散策するときは、有名なものや、初めて見るものが多くあるので、周辺の地にも足を延ばしてほしい。

こち亀を巡る

1976年より週刊少年ジャンプで連載が続けた「こち亀」こと「こち亀」が、葛飾区亀有公園前派出所が昨年最終回を迎えた。40年間続いたこち亀は少年誌に最も長く連載され、その記録はギネス世界記録にも認定されている。1996年から2004年までテレビアニメも放送されたほか、映画やドラマも制作され人気を博した。この歴史と人気から単行本は累計発行部数およそ1億5千万部という驚異的な数字を誇る。今では誰もが知る国民的人気漫画といっても過言ではない。

この舞台こそ亀有である。そのため亀有にはこち亀に関するものが多く存在する。一つ目は、亀有駅周辺にある銅像である。亀有駅を降り、北口を出るとすぐに主人公である両津勘吉の像が迎えてくれる。他にも

のあらゆる飲食店をまわることで、金町周辺の飲食店について、より信頼度の高い評価がでるかと考えたからだ。そして今年度の新歓では、昨年度に引き続き「フールドマップ」を作成する。1年間の活動で蓄積した選りすぐりの店を紹介し、マップには昨年のミス・ミスターコンテスト候補者の高橋美奈海さんと吉田紘城さんも載る。また、今年からは金町の食についての情報をツイッターの他、新たに開設したHPと共に発信する予定だ。研究会長の高橋知久さんは「シヨクブンカは今年からが面白いですよ」と意気込む。

斎藤さんは新入生に向けて、「食」べる活動も含め、

サークルとして楽しめるものもあるし、真面目な活動がしたいければ、いくらでも仕事があります。やる気と遊び心、そして食欲求む」と語った。改革を進めるシヨクブンカ。更なる躍進を期待したい。

ツイッター

@hungryresearch
新歓ごはん会…4月11日
BBQ…4月15日
@水元公園

亀有の昔と今

では亀有、さらには葛飾区にはどういった歴史があるのだろうか。まず、葛西三郎清重という名を聞いたことがあるだろうか。現在からおおよそ900年前の鎌倉時代に源頼朝の家臣として仕え、先祖より受け継いだ葛飾の地を守った人物だ。彼は鎌倉幕府の繁栄を大きく支えた一人として生涯生き抜き、奥州を統治した際は最も功績を上げた。その



▲亀有駅を降りると両さんが出迎えてくれる

結果、源頼朝から広大な土地の支配を任されるようになった。葛飾区四つ木にある天台宗寺院の超越山来迎院西光寺には彼に関する品が数多く保管されている。また、亀有の歴史は以下のようなものである。応永5（1399）年頃、亀有は「亀無」として記され、さらにその後「亀梨」となった。江戸時代に入ると幕府が国図を作成する際、地元から「なし」では縁起が悪いというので「亀有」という現在の名が付けられたといわれている。亀有には水田や池沼が多く、曳舟川沿いは將軍家の鷹狩場として重要な土地でもあった。近代に入ると明治時代以降の廃藩置県や市村合併などの影響で都市部のみならず、郊外の土地でも人口増加があり、昭和7（1933）年に葛飾区が設置されたときは亀青村とされた。そして、現在の住居表示になったのは昭和37（1963）年である。近年、急激に都市化され葛飾区はひと昔前のような水田の多い水郷地帯の名残は薄れてきた。その一方で、都心へのアクセスがよいことからベッドタウンとして発展を続けている。自分の生活する場所の知識を深めて、その土地の良さや歴史に触れてみるのも良いのではないだろうか。